

太陽まぶしいカリブのビーチ、謎深いナスカの地上絵、絶景ブームの火付け役ウニ塩湖。行ってみたいけれど、遠いし、旅費も高い——中南米と聞いて、そんな印象とともに今月号を手にとってくださった方も多かったのではないかと想像します。

かく言う私も、その一人。中南米はなかなか縁のない地域です。私は昨年の夏まで中国に滞在していました。中国では「日中大豆戦争」と見出しを付ける報道もあるほど、中南米での大豆の買付をめぐる日中競争が話題になっていきます。それを聞けば、途端に2万キロの距離はどこへやら、「豆腐は？ 納豆は？」と、目の前の食卓に直結した問題になるから不思議です。

以前は、大豆は中国の主力輸出品でした。その中国が2000年以降、あつと言つ間に世界一の大豆輸入国となったのは、経済発展に伴って肉を食べる機会が増え、食用家畜の飼料として、大豆が必要になったことが主な要因といわれています。

一方、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイの3カ国で、今や世界の大豆輸出量の50%以上のシェアを占めるまでに成長した南米の大豆産産。そのルーツは日系移住者が味噌や醤油といった、祖国の味を守り続けるために、庭先で細々と栽培していたことにあるそうです。

後日、私は日本が豆腐や納豆を作るために使う大豆と、中国が飼料用に使う大豆は、それぞれ輸出国が異なり、「戦争」というほどの状況ではないことを知ってホッとしますが、同時に、世界の食糧を「もう一つの二ホンの人々」が支えてきたのだと、何だかとても誇らしい気持ちになりました。

遠いけれど実は近い——読者の皆様にも少しでもそうした感想を持っていただけたなら、今月号の企画は成功です。

JICA 広報室広報課長 佐々木美穂

本誌へのご意見・ご感想や
JICAへのご質問を
お寄せください。

プレゼント
付き

添付のアンケートはがき、Eメール、FAXから、本誌に対するご意見やご感想、またJICAへのご質問を、氏名・住所・電話番号・職業・年齢・性別・ご希望のプレゼントを明記の上、お送りください。ご記入いただいた個人情報は統計処理およびプレゼント発送以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

◎応募締切：2018年2月15日

Eメール：jica@idj.co.jp
FAX：03-3221-5584（『mundi』編集部宛）

- ① ミャンマー産の箸置き
- ② 書籍『ぼくは13歳、任務は自爆テロ。テロと紛争をなくすために必要なこと』（p37参照）
- ③ 書籍『ごちそうの木 タンザニアのむかしばなし』（p37参照）



①



②



③

本誌をご希望の場合は
下記方法で
お申し込みください。

申込方法

本誌をご希望の方には、送料をご負担いただく形で送付いたします。巻末の払込取扱票に、氏名・住所・電話番号・ご希望の送付期間・送付開始月を明記の上、指定の金額を郵便局でお支払いください。入金の確認後、発送を手配いたします（入金から1週間程度かかることもありますのでご了承ください）。複数冊、またはバックナンバーをご希望の方は送料が異なりますので、下記までお問い合わせください。

申込先 (株)国際開発ジャーナル社 総務部(発送代行)
住所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-2-4 麹町HFビル9F
TEL 03-3221-5583
FAX 03-3221-5584
Eメール order@idj.co.jp



次号予告 (2018年2月1日発行予定)

国際協力を支える人々

世界各国でさまざまな国際協力プロジェクトを展開しているJICA。その活動はJICA職員だけでなく、多くの人の協力によって成り立っています。開発コンサルタントやJICA専門家などJICA事業を支える国際協力の仕事に迫ります。

mundi

JANUARY 2018 No.52

編集・発行／独立行政法人 国際協力機構 Japan International Cooperation Agency : JICA

〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25 二番町センタービル
TEL : 03-5226-9781 FAX : 03-5226-6396 URL : <http://www.jica.go.jp/>
バックナンバーはJICAホームページ (<http://www.jica.go.jp/publication/mundi/>) でご覧いただけます。
本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。